

前書き

人生は人それぞれであつて、どんな人生がよくてどんな人生が悪いなどはひと言で語ることはできない。人は運がいいとかツキがあるとかいって、運やツキに人生の良し悪しを左右される、つまり運やツキのせいにする。これは正しいのだろうか。

また、「運を呼び込む、ツキをつかむ」という言葉があるが、これは本当だろうか。

娘は私に言う。

「お父さんはツキだけで生きている。おまけに私たちのツキまで持つていくから私たちは不幸だ」

そんなことはあるのだろうか。

私が思うには、運とかツキとかいうものは、あらゆる人の前に公平に現れては消え、前を通りすぎていくものであつて、懸命に努力し、必死に生きている人にだけこれが見える。あとは、それが見えたときに一步踏み出す勇氣があるかどうかだと思つてゐる。

こう考えれば、よくいわれるように「頑張る人のみチャンスはくる」つまり「運を呼び込む」ということとの整合性が出てくる。

あえて付け加えるとすれば、どのような人に出会えるかではないだろうか。

しかしながら、素晴らしい人に出会えたとしても、その人に振り返ってもらえなければ出会わなかったのと同じである。つまりその努力する姿勢や人格などにおいて何かを感じさせることのできない人に、出会った人は振り返ってはくれないものである。やはり、「頑張る人」のみチャンスはくるのではないだろうか。

人はいくら頑張ったとしても、天才でもない限りその能力には限界がある。迷い、ときには心が折れそうになる。そんなときに、つまり節目のときにどんな人に出会えるかがポイントであって、その人に教えを請い、影響を受けてまた頑張り、成長していくのではないだろうか。そう考えると、人生の運とかツキとかはどのような人に出会えるか、ともいえるかもしれない。

またよくいわれる言葉として「和をもつて尊しと為す」がある。

これは私が思うには極めて日本的な発想であって、自我を抑えて人と交わる、極論すれば時として自らの個性を抑えて周囲と和することが生きていくうえで大切であるということではないだろうか。いつてみれば、日本的処世術なのかもしれない。

私も初めはこれに近い考え方をしていたが、大学生生活で非常に苦しい体験をしたとともに、人生の師と仰ぐ方に出会って考えを変えた。後悔先に立たず、結果はともかくも納得のいく人生でなければ生きる意味がない、後ろを振り返っても何も始まらない、なりふり構わず前を向いて遮二無二生きていこう、そう考えるようになった。

お釈迦様が言ったとされる「唯我独尊」という言葉がある。これは自己中心のとか傍若無人といった意味で使わ

れることがあるが、本来の意味は、

「この世に唯一無二の存在として生まれた自分であって、この命のままが尊い」

「人の価値は他人との優劣で比較して奢ったり落胆することはない。人はそれぞれ他にない持ち味を生かし自分らしく生きていくことが大切である」

ということである（出典：Wikipedia『唯我独尊』<https://ja.wikipedia.org> 2017年12月25日12時00分確認）。

社会人になるときに決心した。和も大切ではあるが一度しかない人生、ここからは後悔のない人生を生きたい。唯我独尊、これしかない。考え方が極端かもしれないが、これが私なりの「和をもって尊しとせず」の意味である。

以来、私は後ろを振り返ることをよしとせず、日記もつけてはこなかったが、還暦を過ぎて紆余曲折の人生も終焉が見えてきた。そんなときにgalaxyさんから話をいただいた。

「歯科医院の経営コンサル本を書きませんか？」

経営コンサル本？ そんなものを書く気はサラサラなかったが、これはチャンスかと思って、

「自伝なら書いてみたい」

この身勝手な申し出にgalaxyさんは同意してくれた。感謝である。

私の人生は必ずしも誉められたものではないと思うし、もっと違う生き方、ラクで楽しい人生があったかもしれないが、決して間違っていたとも思わない。

どんどん体の衰えも感じ、記憶も定かではなくなりつつある。

どの程度正確に思い出せるかはともかくも、今になって自分の人生を記録に残したい、そんな思いで曖昧な記憶を遡っていくことにした。

このような人生でも、こんな生き方もあるんだということで、幾ばくかでもどなたかの参考になれば幸いである。